



MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP

平成 29 年度版(平成 30 年 3 月発行)

CONTENTS

- 今年度事業の概要
- シンポジウム
- 活動の様子
- ワーキンググループ活動ハイライト: ルーブリックの開発

発行: 宮崎国際大学 AP 事務局
〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地
TEL.0985-85-5931(代) FAX.0985-84-3396
URL: <http://www.mic.ac.jp/>

平成 29 年度事業の概要

平成 26 年度に文部科学省・大学教育再生加速プログラム (AP) テーマ I・II に採択された本学の AP 事業は、スタートして早 4 年目を終えました。本学の AP 事業では「アクティブ・ラーニングによってクリティカル・シンキングを育成する」という教育理念を基盤に、効果的アクティブ・ラーニングモデルの提示、独自のクリティカル・シンキングテストの開発、学修成果可視化のためのルーブリックや e-ポートフォリオの活用を推進し、学修の質の担保及び向上のためのメカニズムの構築を目指しています。昨年度に引き続き、今年度も本学の AP ワーキンググループは、アクティブ・ラーニングの調査、クリティカル・シンキングテストの実施、ルーブリックの開発、e-ポートフォリオ活用の推進など、教育向上のために様々なことに取り組みました。そして、その結果を学内 FD 研修会で発表し、教員間で共有する一方、海外の学会、国内のシンポジウム等においても発表することで、対外的にも本学の AP 事業の普及に努めました。

本学の AP 事業の目標

テーマ I : アクティブ・ラーニング (AL)

1. 実践している AL を体系化し、その成果を検証して、効果的な AL の手法を提示する。
2. 英語スキルを向上させる AL プログラムの構築

テーマ II : 学修成果の可視化

1. クリティカル・シンキングを測定するツールの開発
2. ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA の確立
3. e-ポートフォリオを用いた学修成果の可視化

アクティブ・ラーニングシンポジウム2017

平成 29 年 11 月 25 日 (土)、宮崎県のシーガイアコンベンションセンターでアクティブ・ラーニングシンポジウムを開催し、本学の AP 事業への取組報告をしました。今年度は、英語の発表に同時通訳を付けて、参加者がスムーズに発表を理解できるようにしました。本シンポジウムは、山下学長の挨拶から始まり、各ワーキンググループが、アクティブ・ラーニングの研究、クリティカル・シンキングテストの開発、ルーブリック及び e-ポートフォリオの活用について、それぞれ進捗状況を発表しました。



最後に、AP プロジェクトリーダーである西村学長補佐が 2 年後の最終年度に向けた今後の AP 事業の構想について話し、本シンポジウムは閉会しました。平成 26 年に始まった本学の AP 事業は、今年 5 年目に入ります。本事業の原動力である各ワーキンググループは、いよいよプロジェクト後半期、総決算の時期に入り、より緊密な連携・協働の中、その取組を活発化しています。

今年度の活動の様子

FD 活動

各ワーキンググループは、定期的開催する学内の FD 研修を通じて AP 事業に直接関わっていない教員にも AP の取組を説明し、理解してもらいます。また、フィードバックをもらうことで、大学全体で AP 活動に取り組む態勢を維持・推進します。



学生へのオリエンテーション

AP 事業の一環として導入した「e-ポートフォリオ」を有効活用してもらうためのオリエンテーションを開催しました。今年度は、新入生の他に海外研修に出発する 2 年生に対しても「留学 e-ポートフォリオオリエンテーション」を開催し、学生が留学先で e-ポートフォリオを有効に活用できるよう、指導を行いました。

学外での発表

教授陣の多くが外国人であるという本学の強みを活かし、本学の AP 事業は日本での国際学会や海外の学会でその取組の発表を行っています。今年度は、カナダ及びアメリカの国際学会で発表を行い、世界の多くの研究者と交流し、知見を広げるとともに、本学の AP 事業の普及に努めました。





ルーブリック・ワーキンググループの目的

ルーブリック・ワーキンググループの目的は、学生の学修成果を可視化するシステムの開発をすることです。国際教養学部ディプロマ・ポリシー（DP）に関連した「Advanced Thinking」「Global Perspective」「English」「Japanese」及び「IT Skills」から、40の評価項目を作成しました。この評価項目はCan-do自己評価（各評価項目に対してどれ程できるかの自己評価）として、e-ポートフォリオに組み込まれます。同様に、40の評価項目と授業を関連付けることで、学生は授業の成績に応じた評価を受けます。そして、自己評価及び授業からの評価のグラフを作成し可視化することで、本学のDPに沿った学修目標の到達に向けて日々の学修に臨むことができます。

各 DP の目標からの例

Can-do を使用した自己評価 (0=できない 4=よくできる)		0	1	2	3	4
Advanced Thinking	I can evaluate results and make a logical conclusion		●			
Global Perspective	I can understand and share feelings of inequality	●				
English	I can speak clearly with a natural rhythm		●			
Japanese	I can make concise answers		●			
I.T. Skills	I can use a spreadsheet			●		

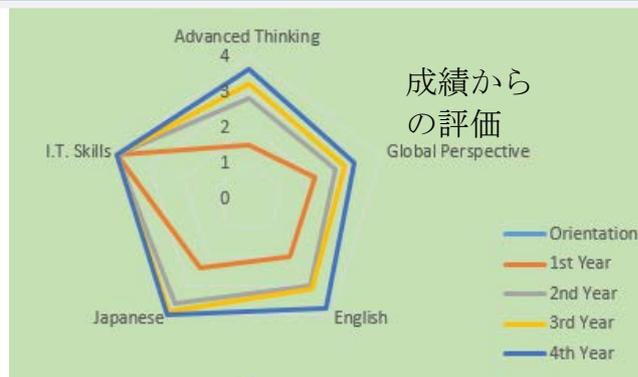
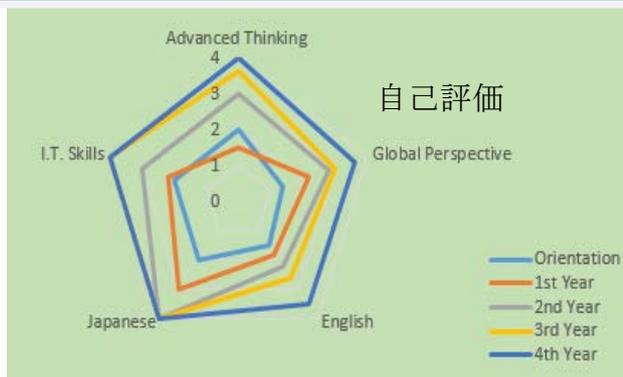
* 各 DP には、それぞれ 8 つのより細かい自己評価項目があります。

授業 A~E (例) と DP 項目との対応表 (●は、その授業で扱う項目)		A	B	C	D	E
Advanced Thinking	I can evaluate results and make a logical conclusion	●		●		
Global Perspective	I can understand how things are related	●				●
English	I can decide if something is reliable	●		●		●
Japanese	I can speak clearly with a natural rhythm		●			
I.T. Skills	I can write ideas with developed arguments	●			●	

* 例えば、授業 A 及び C では、Advanced Thinking の項目を扱います。

授業 A~E (例) の成績と DP 評価との関連付け		A	B	C	D	E
Advanced Thinking	I can evaluate results and make a logical conclusion	3		1		
Global Perspective	I can understand how things are related	3				4
English	I can decide if something is reliable	3		1		4
Japanese	I can speak clearly with a natural rhythm		2			
I.T. Skills	I can write ideas with developed arguments	3			3	

* 成績 A=4, B=3, C=2, D=1, F=0 となるように、成績評価(A~F)を点数(4~0)に変換し関連付けます。



平成 29 年度の主な活動

- 4月~ クリティカル・シンキングテストの実施及び分析
- 5月 e-ポートフォリオオリエンテーション実施
アクティブ・ラーニング及びルーブリックの活用に関するFDの実施
- 6月 留学e-ポートフォリオオリエンテーション実施
- 10月 カナダの学会にて、これまでのアクティブ・ラーニングに関する取組の成果を発表
- 11月 アメリカの学会で本学のAP事業について発表
- 12月 2017アクティブ・ラーニングシンポジウムを開催
- 1月 CTテストに関するFDを実施
- 1月~ 各ワーキンググループの活動成果分析
- 3月 平成29年度外部評価委員会開催

平成 30 年度の主な活動予定

- 4月 新入生へ「DPルーブリック自己評価」を実施
- 4月 全学合同FD研修会を開催
- 4月~ e-ポートフォリオオリエンテーションを実施
- 4月~ 学生にクリティカル・シンキングテストを実施
- 5月 アクティブ・ラーニングに関するFDを実施
- 5月 DPルーブリックに関するFDを実施
- 11月 e-ポートフォリオに関するFDを実施
- 12月 クリティカル・シンキングに関するFDを実施
- 1月 学年末ページ・e-ポートフォリオのオリエンテーションを実施
- 2月 2018アクティブ・ラーニングシンポジウム開催
- 3月 平成30年度外部評価委員会開催